

一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属

南東北創薬・サイクロトロン研究センター



設立目的

- 最新式の診断機器 (PET-CT) と新規開発された検査薬 (PET製剤) を用いて、PET検査の新しい可能性を切り拓いていきます。
- 診断・治療に直結する新しい薬剤の開発に力を注いでいきます。

概要

(面積)

敷地面積 985.30㎡(298.05坪)

延床面積 1,296.79㎡(392.27坪)

※鉄筋コンクリート造地下1階/地上2階
(地下はR1排水処理室、屋上は階段室のみ)

(導入機器)

- ・半導体型PET-CT
- ・動物用PET-MRI
- ・サイクロトロン
- ・ホットセル7基
- ・薬剤合成装置3台
- ・無菌アイソレータ

案内図



〒963-8052 福島県郡山市八山田七丁目61-2

(総合南東北病院 管理棟西側、南東北医療クリニック南側)

TEL.024-934-5610(代表) FAX.024-934-5620

新しい可能性を切り拓く

創薬、PET薬剤の研究・開発
治療に直結する診断・診療・臨床研究の実施

BNCT適応診断
がん診断
認知症診断

Pro vono aequorosa

南東北創薬・サイクロトロン研究センター



理事長・総長
渡邊 一夫

高齢化の影響などで、がん患者数および死亡数がともに増加を続けるなか、がんの早期発見に寄与するPET検査の重要性は今後ますます高まると考えられます。

当センターは、南東北BNCT研究センターでがん治療を進めるために用いられる薬剤の研究開発をはじめ、がんと並び高齢化社会により深刻な問題となる認知症を早期に発見するための薬剤や、その他さまざまな薬剤の開発と臨床応用の可能性を実現させるために、大阪大学大学院医学系研究科附属PET分子イメージングセンターのセンター長の要職を務めた畑澤先生を迎え、新たにスタートいたします。

当センターの設備により、多くの薬剤の臨床利用、臨床研究を実施することは、新たながん診断・治療のための最新医療の一翼を担い、より多くの患者様に貢献できるものと考えております。地域の医療機関を牽引する施設として、共同研究・開発にも取り組んで参ります。

半導体型PET-CT

PETは、放射能を含む薬剤を用いる核医学検査の一種で、様々な生体機能を画像化することができる検査です。PET検査は、通常がんや炎症の病巣を調べたり、腫瘍の大きさや場所の特定、良性・悪性の区別、転移状況や治療効果の判定、再発の診断などに利用されています。認知症やてんかん、心筋梗塞を調べるのにも使われています。

当センターに導入する最新型のPET-CTは、これまでの光電子倍增管(真空管)の代わりに半導体を使い放射線を検知する能力を高めた装置で、検出精度が高まり、従来のPET装置では見えなかったものが見え、より確かな数値での診断評価が期待されます。

当センターでは、このような最新式の診

